

蘇える昭和初期

松尾町 大野正夫氏 資料提供



坂田城趾からの遠望

①今のようには遊ぶ道具が豊富になかった昔、子供達にとっても木登り、かくれんぼといった自然を利用した遊びがほとんどでした。

写真正面の松、記憶に残っている人も多いと思う。幹の周囲が大人4〜5人で手を回すほどあったこの松は、坂田池東側にそびえ立ち、近所の子供達の格好の遊び場でした。高い建物のなかった当時、晴れた日には、この木からはるか栗山の飛行場まで見渡せたそうです。名物的存在だったその老松も、その後落雷にあい、無残な姿となりました。

八代松の名の起りも、この松（はい松）に由来していると地元の方は言っています。失われつつある自然の景観を残しながら、今、この坂田池を中心とした公園計画がすすめられ、やがて一変した姿を見せることでしょう。

②石合山は町原の吉岡宗隆氏によって開山され、昭和3年11月大師堂が建立されました。当時、春秋の大祭、毎月20日に行われる例祭には、大勢の信者で賑わったそうです。

③近くに金刀比羅神社をひかえ、門前町として栄えた上町通りには、当時4軒の旅館がありました。

(昭和4年10月撮影)



上町表通り (三ッ角から松尾方面を望む)



四国八十八ヶ所石合山裏山